

2010年(平成22年)10月19日(火曜日)

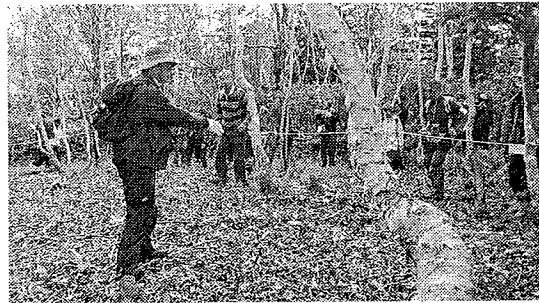
## 交易ルートの復元探る

### 増毛山道の会らが現地検討会

【留萌】増毛と浜益を結んだかつての交易ルート・増毛山道の復元と活用の可能性について探ろうと、留萌振興局とNPO法人増毛山道の会(伊達東会長)は16日、現地検討会を開いた。

増毛山道は、幕末に場所請負人が私費で開削した、増毛山地を越える陸上交易ルート。増毛町別

茹一石狩市浜益区幌までの26・8キロ、途中増毛町岩尾へ抜ける5キロの延べ31・8キロからなる。このうち、別茹から岩尾分岐までの10・8キロと岩尾分岐から岩尾までの5キロの伐採作業がこのほど終了。今回はこれを機に、振興局、会員のほか、地元関係者、旅行者ら44人が伐開したばかりの山



道を実際に歩き、今後の山道について話し合った。当日は、ふもとの集合場所から会員の車両に分解し、スタート地点となった岩尾分岐付近へ。ルートの特定や伐開の中心

たササに足を取られながら、別茹手前の林道までの8キロの道のりを約5時間かけて踏破。途中、旧一等水準点や武好駅通跡では会員から発見の経緯や当時の様子などについて山道の会の会員らが解

当時の様子などを解説する武好駅通跡の会員の小杉忠利君が、参加者らに当時の様子などを解説する。小杉君は、参加者らに当時の様子などを解説する。小杉君は、参加者らに当時の様子などを解説する。

的役割を担った山道の会の事務局・小杉忠利小杉測量設計社長から、今回のルートの説明などが行われた。

この後、集合場所に戻り、検討会を開き「せひ全線の復元を」「ガイドや案内板など、歴史的背景を知る工夫が必要では」「維持管理についてどうするか」など参加者から意見が相次いだ。

増毛山道の会では、今回伐開したルートの整備を10月下旬まで行い、11月中旬に今後の山道の整備や利活用について今回の意見を踏まえて検討する考えだ。